

1-G3-15 妊娠糖尿病のスクリーニングに関する多施設共同研究

三重大学医学部産科婦人科¹, 三重大学医学部産科婦人科学講座²
日下 秀人¹, 杉山 隆², 近藤 英司², 前川 有香²,
豊田 長康²

【目的】妊娠糖尿病は厳格な管理による血糖正常化により、その多くを防止することが可能であり、早期発見・早期治療の効果は非常に大きい。現在、全国規模で症例数を集積しており、今後各スクリーニングの感度・特異度を算出し、今後我が国で実施すべき妊娠糖尿病のスクリーニング法を決定する予定である。【方法】既に糖尿病と診断されている患者などは除外し、同意の得られた妊婦に、妊娠初期と中期に各スクリーニング検査および75gOGTTを施行した。【結果】対象となった妊婦1610人中、GDMは60例（3.7%）であった。60例のGDMのうち、妊娠初期に診断された症例は41例であった。【結語】妊娠初期にGDMの68%が発見された。スクリーニング法としては、現在のところ50gGCT法が妊娠初期・中期ともに、感度・特異度に優れている。